

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成 19 年 8 月 2 日 (2007.8.2)

【公開番号】特開 2006-67455 (P2006-67455A)

【公開日】平成 18 年 3 月 9 日 (2006.3.9)

【年通号数】公開・登録公報 2006-010

【出願番号】特願 2004-250234 (P2004-250234)

【国際特許分類】

H 0 4 R 1/04 (2006.01)

H 0 4 R 19/04 (2006.01)

【F I】

H 0 4 R 1/04 Z

H 0 4 R 19/04

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 6 月 13 日 (2007.6.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 9】

コネクタ部 1 0 は円筒状のコネクタハウジング 5 0 に嵌められている。コネクタハウジング 5 0 はコネクタ部 1 0、絶縁スリーブ 6 0、およびかしめ金具 7 0 の円筒部 7 1 を覆うことができるだけの長さを有している。コネクタハウジング 5 0 の後端外周は、ブッシュ 4 0 の前端内周に嵌まるように構成されている。上記ブッシュ 4 0 は、マイクロホンケーブルの外径よりわずかに大きな内径を持つテーパ状の根元部 1 4 1 と、かしめ金具 7 0 を覆うことができ根元部 1 4 1 よりも大径のカバー部 1 4 2 を有してなる。上記根元部 1 4 1 に形成されている中心孔に上記マイクロホンケーブルが挿通される。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 2】

以下、本発明にかかるマイクロホンコネクタの実施例について、図面を参照しながら説明する。なお、図示の本発明の実施例において、図 5、図 6 に示す一般的構成例と同じ構成部分には共通の符号を付している。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 3】

図 1 において、レセプタクル 3 0 は、金属からなる円筒状の部材で、一端部（図 1 において左端部）外周にフランジ 3 3 が形成されている。レセプタクル 3 0 は例えばパワーモジュール部などの筐体 3 8 に形成された孔に筐体 3 8 の外側から挿入され、適宜の手段によって、例えば、筐体 3 8 の内側からレセプタクルの外周にナットをねじ込み、このナットと上記フランジ 3 3 で筐体の外壁を挟み込む、などの手段により筐体 3 8 に固定される。

。レセプタクル 30 は、フランジ 33 形成端とは反対側が底部となっていて、底部には絶縁体からなる比較的厚さ寸法の大きい底板 32 が、嵌合、ねじ込み、その他適宜の手段によって固定されている。底板 32 には 3 本のピンが底板 32 を厚さ方向に貫通して埋め込まれ固定され、上記各ピンを電氣的に一体の接続端子 42 が上記底板 32 から外方に伸びている。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 6】

